

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371301165		
法人名	社会福祉法人 愛生福祉会		
事業所名	グループホーム 集い 1F		
所在地	名古屋市守山区瀬古3丁目830番地		
自己評価作成日	平成28年 8月10日	評価結果市町村受理日	平成28年10月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JiyosvoCd=2371301165-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成28年 8月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の中で「普通に暮らす」ことを大切にしていきます。要介護、認知症になっても、心身の機能が衰え日常生活に他者の手が必要となっても「その人がその人らしく生活できるよう」その人の意思を尊重し利用者主体の生活を支援していきます。「暮らしの場」を大切にしていきます。職員も、相手を想う「思いやり」の気持ちを大切にして、利用者様と信頼関係を築いていきます。「安心」「安全」「安楽」に過ごしていただくよう、「今日も、ここに居て良かった」と思っていただけよう支援していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「その人がその人らしく暮らす」ための支援を、管理者の指導の下で職員が一丸となって取り組んでいる。利用者一人ひとりが生活の中に楽しみを作れるよう、今年度は特に個別外出支援に注力してきた。利用者の希望を可能な限り実現しようと取り組んだ結果、外出先はカラオケや名古屋ドームでの野球観戦、京都への旅行、下呂温泉旅行と多様で、広範囲なものとなっている。日常から「普通に暮らす」生活を大切にしており、建物には施設することなく利用者は自由に行動している。併設のデイ・サービス施設へ遊びに出かけたり、2階フロアへあがって行ったり、玄関先で喫煙を楽しんだりする利用者もいる。その人らしさを大切にする支援は、利用者だけでなく家族の高い満足度にもつながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有の為、朝礼時法人理念の唱和を行い、理念の実践が出来るようフロア会議を行い理念に基づくケアの実践に努めている。	「愛・誠実・謙虚・感謝」を法人理念とし、事務所内に掲示すると共に朝礼や会議で事例をもってその意味合いを話し合っている。職員には理念が浸透しており、その人らしく暮らせることの支援につながっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会への協力、夏祭り、敬老会など地域行事への参加、地域への買物や喫茶店へ行き地域交流を図っている。	自治会に加入して回覧板で情報を得、夏祭り等の地域行事には積極的に参加している。地域の子ども園との交流は定着しており、園児が事業所を訪れている。大学や専門学校の実習生の受け入れも行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・報告、話し合いはされていますが、サービスの向上には至っていません。	利用者、家族、地域、行政、知見者が参加して年6回開催している。現状報告と併せて金銭管理、健康管理、身体拘束等のテーマを持って話し合い、徘徊高齢者おかしら支援の活用等、実践例も多い。	事業所の目標達成計画を議題として取り上げ、進捗状況を報告すると共に、意見、提案を募って運営に活かすことが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護のケースワーカーと連絡、報告を密にとっている。	生活保護受給者の利用があり、定期的に区の保護課職員が来訪している。区から利用者受け入れの依頼があったり、いきいき支援センターと協同して認知症サポーター養成講座の実施を検討したりと連携は密である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・安全の為に夜間のみ玄関の施錠をおこなっていますが、日中は解放されており誰でも出入り可能な状況となっています。身体拘束も一切ありません。	利用者の出入りはチャイムで感知し、施錠することなく見守りで安全確保を図っている。利用者の無届外出があった後もその姿勢を貫き、ホーム内、戸外を問わず、利用者の生活の自由を最大限尊重している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	・学ぶ機会を持ってませんが、未然に防げるよう職員間の連携はとれていると思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中には、名古屋市社会福祉協議会の権利擁護センターを利用しており、金銭管理でお世話になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・充分内容を説明した上で不安や疑問点を伺い、理解納得して頂けるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価アンケート、法人内サービス評価アンケートなどの意見をサービスに反映させている	家族の来訪は頻回で、来訪時や電話で近況報告すると共に意見の聞き取りを行っている。家族アンケートではきめ細かい報告や職員の親身なケアに多くの感謝の声が寄せられ、満足度の高い結果が得られた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人内の改善チャレンジ提案書を推奨し改善案を出してもらいサービス改善に努めている。	月1回のフロア会議では、職員が意見や提案を書面にして提出し、活発に意見交換している。利用者一人ひとりの満足を追求する中で、職員意見や提案は多く、結果を支援に反映していく体制が整っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体で、残業ゼロの取り組みをしている。ミーティングなどで定時帰宅をすすめている。業務改善、職員間の定時あがりの声の掛け合いをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で経験年数に応じてフォローアップ研修を行ったりOFF-JTをすすめている。また、法人内の無資格職員において初任者研修を無償で受講をすすめている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の交流研修会、自主勉強会を実施している。また、同業種の外部講師を招いてサービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・御利用者が普段お話される事や行動に対して、情報収集し何が必要かを他の職員と話ををして落ち着いて頂ける環境作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・御家族と話をし、集いを利用して頂く上で納得して頂けるサービスが提供できるように情報収集を行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・生活をして頂く上で何が足りないのか、何を必要としているのかをご利用者ご家族からお聞きしながらサービス内容の検討を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・その時の御利用者の体調も考慮しながら、できる事は作業をお願いし手伝って頂いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・御家族に月1回近況を文章でお伝えしている。また御家族が来所された時は記録をお見せしながら職員が説明を行い、御本人とも話をし頂けるようお願いをしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・個人情報兼ね合いもあり施設より直接ご連絡する事はないが、御家族が来所された際の帰り際に、また来所して頂けるようお願いをしています。	よく訪れていた地への旅行、スポーツ観戦、馴染みの神社への参拝と、それまでの生活の継続を積極的に支援している。過去に看取りを行った利用者の家族が現在も手芸の講師として来訪し、関係を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・御利用者同士の中に職員が入り、会話等の支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方の家族に、その方の特技の手芸を活かして、当ホームの教室の講師として来ていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・常に御本人にとって何が良いかを第一に考え、希望や意向の把握に努めています。	利用者の言葉を一人の職員の判断で思い込むことなく、多くの耳をもって聞き取ることに努め、利用者の真の思いを掴むよう心がけている。掴んだ意向は進捗記録に記し、職員間で情報共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各居室担当者が御本人からお話を伺い、生活歴などこれまでの暮らしの様子を把握するようにしています。また入居後も御本人からだけでなく、御家族からの情報収集も行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・毎日のバイタル測定、月1回の体重測定の実施、その日のご様子をケース記録に記入し、現状の把握が出来るように努めています。また、申し送りから予測される事を考え、注意する事を勤務者と情報伝達しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・月1回フロア会議を行い、ケアプランの検討をユニット職員間で行っています。また御家族から必要な情報収集を行い、可能な限り実践しています。	利用者ごとの担当職員が毎月モニタリングを行い、進捗記録の内容や家族から聞き取った意見を基に職員間で話し合い計画に反映している。利用者の希望が目標に盛り込まれ、個性豊かな介護計画である。	計画書の1表と2表の間で文言の連動性が明確になると、さらに分かりやすい計画書となる。表記の仕方の工夫を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・可能な限り取り組んでいます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・デイサービスや他ユニットで過ごして頂く等の対応をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・可能な限り取り組んでいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・毎週月曜日に主治医に往診して頂いています。御本人や御家族様の希望に応じ、他医療機関にも診て頂いています。	ホーム協力医が定期的に往診している。専門科への受診は書面をもって情報提供し、家族対応が原則であるが、必要に応じて職員が同行することもある。緊急時には協力医の指示を仰ぎ、総合病院を受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・施設看護師に相談し、助言を頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・ユニット職員が御利用者の入院先に行く事は出来ていませんが、施設長がお見舞いに行き、御利用者に安心して頂くとともに、病院スタッフと情報交換を行うことで関係作りを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	でいるだけ、早い段階で家族に今後の予測される状態の報告と家族と今後の意向を相談する。終末期の迎え方を希望に添えるように努めて行く。	入居時から利用者や家族の意向を聞き取り、利用者の状態の変化に合わせて家族と話し合っ方針を決めている。医療機関や他施設への移行を支援したり、家族と協力医の協力が得られればホームでの看取りにも対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・定期的な訓練は行えておらず、職員によって緊急対応の能力にばらつきがあります。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・基本として月1回、水害・地震・火災等の状況に応じた訓練マニュアルを基に、防災訓練を実施しています。また近くの企業に災害時の支援をお願いし、その訓練も年1回行っています。	原則月1回、様々な想定 of 防災訓練を行っている。訓練には近隣住民も参加し、地域の企業の警備員の協力も仰げる体制がある。AEDを設置し、職員は消防の救命講習を受けて救命普及員の資格を取得した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・配慮面ではまだまだ足りない部分がありますが、丁寧な言葉遣いを心掛け、個人情報に関わる事は人前では話さないようにしています。	職員は言葉使いや接する態度に配慮しながら、利用者を尊重したケアに努めている。職員から、「時には利用者からたしなめられることもある」との話があり、両者の信頼関係が感じられた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩に行きたい、喫茶店に行きたいとの希望があるので、希望に沿えるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・職員の出勤、退勤時刻以外は時間の制限を細かく設けていないので、好きな時間に起床、就寝して頂き、極力御自身のペースで生活してもらっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・毎月理美容サービスに来て頂き、毛染めやパーマ等の希望に沿えるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・各御利用者の出来る範囲で調理作業も手伝って頂いております。	担当職員が一週間分のメニューを作成し、法人の栄養士がそれをチェックして食材を購入している。利用者は調理の段階から可能な作業に参加し、包丁を扱う利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・毎日の食事量を記録しています。必要に応じて水分摂取量も記録しています。御利用者の状態に合わせた食事を提供しています。食事量が少ない方については、食べたいものを食べたい時に召し上がって頂く事で食事摂取量確保に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後は実施できておりませんが、御利用者負担のかからない範囲で行っています。拒否の強い方には、時間を開けての声かけや、うがいのみの実施をお願いする等しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・1人1人の力や排泄パターンや習慣を活かした上でプライバシーに配慮し、できる限り御自身でトイレに行ってもらえるように支援しています。	利用者に羞恥心を感じさせない声かけに努め、トイレで排泄できるよう支援している。フロア会議で適切な支援方法を話し合い、必要に応じてポータブルトイレの利用や夜間の声かけ等を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・便秘傾向がみられる際は医師に指示を頂き、下剤を服用して頂いています。便秘がちな方には乳製品や水分を多めに摂って頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・御本人の要求に沿えるように支援しています。夜間の入浴も可能な限り対応できるようにしています。菖蒲湯やゆず湯等の季節を楽しんで頂く為の工夫もしています。	一日おきに夕方の時間帯の入浴を基本としているが、希望があれば毎日の入浴も支援している。同性介助の希望があれば対応し、入浴剤を用いて入浴が楽しめる環境作りを心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・御利用者のその日の体調に気を配り、必要に応じて休息を促しています。体調調整や寝具調整等を行い安眠できるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・全職員が把握できるように、薬の変更時は申し送りを徹底するように努めていますが、内容の把握はできていません。服薬については、服薬後の状況観察を必ず行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・家事やレクリエーション等、個人の能力に応じた役割を持って頂く事で、規則正しい生活に結びつくように支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・散歩、喫茶店、買い物等に可能な限り対応しています。	花見や紅葉狩りなどの季節を感じさせる外出のほか、個々の希望に合わせた個別外出も積極的に支援している。外食、喫茶、参拝、カラオケ、旅行と、希望は様々だが、家族の理解と協力を得ながら多くの希望を実現している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・基本的には施設管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・希望があれば電話して頂いています。手紙についても、希望があればはがき等を用意し、近くのポストに御自身で投函する為の外支援助を行います。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節によって壁飾り等を作成しフロアに季節感を出しています。	社員寮だった建物を活用したホームで、広々としたリビングにはゆったりと寛げる食卓やソファが置かれている。広いテラスで食事会を開いたり、玄関先のベンチで外気浴をしたりと、ゆったりとした生活が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ホールが狭いので限界があるが、ソファや椅子を多く置く事で居場所の提供を行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・御本人が生活しやすいように配置を行っています。必要に応じて、配置換えも行っています。	多数の化粧品が並んだ鏡台、自分で購入した物を保管する冷蔵庫、テレビ、タンス、経本と安心できる品々が持ち込まれた個性豊かな居室が並んでいた。利用者の状態に合わせて家具やベッドの配置換えを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・なるべく自由に行動して頂けるよう、動かれる時は見守りを中心に支援しています。階段等の危険な場所は必ず職員が寄り添うようにしています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371301165		
法人名	社会福祉法人 愛生福祉会		
事業所名	グループホーム 集い(2F)		
所在地	名古屋市守山区瀬古3丁目830番地		
自己評価作成日	平成28年 8月10日	評価結果市町村受理日	平成28年10月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2371301165-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成28年 8月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の中で「普通に暮らす」ことを大切にしていきます。要介護、認知症になっても、心身の機能が衰え日常生活に他者の手が必要となっても「その人がその人らしく生活できるよう」その人の意思を尊重し利用者主体の生活を支援していきます。「暮らしの場」を大切にしていきます。職員も、相手を想う「思いやり」の気持ちを大切にして、利用者様と信頼関係を築いていきます。「安心」「安全」「安楽」に過ごしていただくよう、「今日も、ここに居て良かった」と思っていただけよう支援していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--	--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝のミーティング時に、法人理念「愛」「誠実」「謙虚」「感謝」の唱和を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会への協力、夏祭り、敬老会など地域行事への参加、地域への買物や喫茶店へ行き地域交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・報告、話し合いはされていますが、サービスの向上には至っていません。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護受給者については、定期的に区の担当者に状況報告している。またケアプラン更新時に、ケアプランを区の担当者にFAX送信している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全確保の為に、浴室・倉庫と夜間のみ玄関施錠を行っている以外は、基本的に開放されている。身体拘束については、一切行っていないし、行う必要が無い環境作りをしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ期間を持っていない。しかし未然に防げるように、職員間連携はとれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を持っていないが、身元引受人のいない方には、権利擁護センターの方の支援を受けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・充分内容を説明した上で不安や疑問点を伺い、理解納得して頂けるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書にも書かれているが、外部の苦情受付の窓口を設けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案は内容をリーダーが聞き施設長に報告しているが、内容によっては適格に主旨が伝わるように起案者から施設長に報告を行っている。また職員会議の時などに他の職員と話し合いが行われている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体で、残業ゼロの取り組みをしている。ミーティングなどで定時帰宅をすすめている。業務改善、職員間の定時あがりの声の掛け合いをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で経験年数に応じてフォローアップ研修を行ったりOFF-JTをすすめている。また、法人内の無資格職員において初任者研修を無償で受講をすすめている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の交流研修会、自主勉強会を実施している。また、同業種の外部講師を招いてサービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御利用者との会話や行動、御家族からの情報を得ている。落ち着いて気持ち良く過ごして頂けるように、他の職員と会議などで検討を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御利用者本人や御家族と話をし、情報収集をし、集いを利用して頂く上で納得して頂けるサービスが提供出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御自宅で何に困ってみえたか、生活をして頂く上で足りない事や必要としている事を御本人や御家族からお聞きしながらサービス内容の検討を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その時の御利用者の体調も考慮しながら、出来る作業はお願いし手伝って頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族が来所された時に、記録を見て頂きながら職員が説明を行っている。記録については、御利用者本人にも見て頂く事が出来る事を説明している。また月1回、近況を文章でお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個人情報の兼ね合いもあり、施設より直接ご連絡はしていない。御家族には来所時や連絡を差し上げた時に、また来所して頂けるようお願いをしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の間に職員が入り、会話等の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	集い御利用者の家族が月に1回、御好意でボランティアに来て頂いている。集いを退所されても来所される方については相談や支援対応を行うが、積極的に集いから御連絡はしていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人にとって何が良いかを第一に考え、希望や以降の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御利用者全員の生活歴は、まとめられていない。しかし御本人から話を伺い生活歴等これまでの暮らしの様子を把握するように努めている。また御自身からの意思表示が難しい方や記憶が曖昧な方については、御家族から情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定、月1回の体重測定の実施と毎日の様子をケール記録に記入し、現状把握が出来る様に努めている。また申し送りから予見される事を考え、注意する事を勤務者と情報伝達している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回フロアー会議を開催し、ケアプランの検討をユニット職員間で検討している。またフロアー会議開催前に各職員から情報収集する事と御家族からも情報収集を行い、会議後にケアプランを通して御家族にも情報提供を必要に応じて行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々ケース記録に記録を行い、いつでも閲覧できるようにしている。御家族が来所された時に記録を見て頂きながら職員が説明を行っている事と、御利用者本人にも見て頂く事が出来る事を説明している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	集い全体で参加して頂ける行事を、時々であるが行っている。また御利用者が落ち着かれない時に必要に応じて、グループホームの他のユニットやデイサービス等で過ごして頂く事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	可能な限り、取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週月曜日に主治医に往診をして頂いている。御本人や御家族様の希望に応じ、他医療機関でも見て頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護士より御利用者の状況を看護師に報告・相談し、状況確認から検討・助言を得ている。必要に応じて受診手配や受診への付き添いを行っており適切な医療処置を受けられるようしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・ユニット職員が御利用者の入院先に行く事は出来ていませんが、施設長がお見舞いに行き、御利用者に安心して頂くとともに、病院スタッフと情報交換を行うことで関係作りを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族への説明は、入居時や来所時に行っている。対応については御家族の希望を伺い、同意書を随時更新し可能な限り行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行っておらず、職員によって緊急対応の能力にばらつきがある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	基本として定期的に、水害・自身・火災等の状況に応じた防災訓練をマニュアルを基に実施する事になっている。守山区消防署の協力を得て、模擬消火器訓練も含めた避難訓練も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	配慮面でまだまだ足りない部分があるが、丁寧な言葉遣いを心がけ個人情報に係わる事は話し合う場所を変える等して人前で話さないようにしている。また相手の立場に立って考えいるように職員に話をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩や買い物に行きたいとの希望に沿えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の出勤・退勤時刻以外は、業務上での時間制限を細かく設けていない。生活リズムが崩れない事を前提に、御利用者の好きな時間に起床や就寝して頂きながら御自身のペースで過ごして頂けるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月、理美容サービスに来て頂いて毛染めやパーマ等の希望に添えるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各御利用者の出来る範囲で、調理作業を手伝って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各御利用者の状況に応じた食事を提供しており、毎食毎に食事量を記録している。看護師からの指示等により、必要に応じて水分量の記録を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝食後と夕食後に、口腔ケアを行って頂くよう御利用者に促している。義歯の手入れについては、職員が行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	御利用者の排泄タイミングや習慣を生かした上で、プライバシーに配慮し出来る限り御自身でトイレに行ってもらえるように支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向がみられる際は、医師に指示を頂下剤を服用して頂いている。便秘され易い方は、乳製品や水分を多めにとって頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	御本人の希望に添えるように支援をしている。菖蒲湯や柚子湯など季節を楽しんで頂く為の工夫もしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	空調や寝具調整等をして、安眠出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師を中心に全職員が把握出来るように、薬の変更時は申し送りを確実に行うように努めている。しかし、内容の把握までは出来ていない。服薬については、服薬後の状況観察を確実にいようとしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事やレクリエーション等、個人の能力に応じた役割を持って頂く事で、規則正しい生活に結びつくように支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・喫茶店・買い物などに、可能な限り対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に施設管理しているが、個人で所持されている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話して頂いている。手紙についても希望があればハガキ等を用意し、近くのポストに御自身で投函する為の外支援助を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や御利用者で作った作品を飾る等して、工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールが狭いので限界があるがホール内のレイアウト見直しを行い、居心地の良い場所の提供が行えるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人が安全に生活し易くなるように、配置を行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	なるべく自由に行動して頂けるよう、動かれる時は見守り中心に支援を行っている。階段などの危険な場所では、必ず職員が寄り添うようにしている。		